

崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

開催日時： 平成3年3月18日 13:30-17:00（原研本部）

出席者： 片倉（原研）、加藤、田坂（名大）、中嶋（法大）
山田（早大）、吉田（東芝）

配布資料：
a. 前回議事録（吉田委員）
b. Juelich会議アブストラクト他（吉田委員）
c. JAERI-M 91-034（崩壊熱基準英訳版）
d. 投稿論文（崩壊熱感度解析）（片倉委員）
e. ベータ線スペクトル計算結果（田坂委員）
f. 遅発中性子計算結果（中嶋委員）

議事：

I. 報告事項

(1) 一般報告

- 1) 資料b.に基づきJuelich会議の発表論文（崩壊熱AESJ推奨値）準備状況の報告が吉田委員よりあった。
- 2) 崩壊熱AESJ推奨値のレポートの英訳版が完成（資料c.）、全員に配布された。
- 3) 崩壊熱感度解析の仕事をまとめ、原子力学会欧文誌に投稿したとの報告が片倉委員よりあった（資料d.）。
- 4) 来年に予定されるFPに関するNEAの専門家会議のプランとスウェーデンのProf. Rudstamの今秋の来日の計画が吉田委員より報告された。

(2) ベータ線スペクトル計算

資料e.に基づきベータ線スペクトル計算結果と測定との比較が田坂委員より報告された。短冷却時間で良く合うが、長冷却時間では計算のほうがハードになる。今回、高エネルギー側の大規模的理論の強度関数と低エネルギー側の測定データを繋ぐ手法を試み旨くいった。繋ぎ方はこれでよいはずであるとのコメントが山田委員よりあった。

(3) 遅発中性子計算結果

資料f.に基づき遅発中性子収率計算結果が中嶋委員より報告された。Z一定のプロット上でスムースになるよう収率を修正するとU-235, Pu-239の β 値は評価値(Tuttle)に近づく。

II. 討議事項

(1) 平成3年計画

田坂委員のベータ線スペクトル計算結果等の議論をふまえ、本ワーキンググループの平成3年計画を次のとおり策定した。

1) J N D C ライブライリーの改訂

大局的理論の強度関数と測定データを繋ぐ手法を活用し、2-3年かけJ N D C ライブライリーの改訂を試みる。これに際し、ベータ線スペクトルの解析等を通じ、ライブライリーの信頼性向上をバックアップする。

2) 核分裂収率評価

今まで殆ど手つかずの核分裂収率評価システムの作成に着手し、将来的に収率データの推定や修正を行えるポテンシャルを作りあげる。

III. Action List

- a. Prof. Rudstamよりガンマ線スペクトルデータ入手→片倉委員
- b. Prof. Wahlより核分裂収率データ入手→田坂委員
- c. Juelich会議の論文の作成→吉田、片倉委員

次回は5月31日(金)